

生田キャンパスで「学内企業説明会」200社が参加



5月22日から3日間にわたって、就職課主催「学内企業説明会」が生田キャンパスで実施された。この説明会には採用活動を計画・継続している首都圏を中心とする約200社の企業が参加。就職課では、進路届を提出していない学生に対してホームページ上で案内を公開し、また別途説明会開催通知を発送することによって参加を呼びかけた。

延べ230人の学生が参加し、各企業コーナーの人事担当者から熱心に説明を受ける姿が見られた。

〔6月15日/ニュース専修14面〕

【県人会 北から南から】宮崎県人会

友だちとの時間を大切に 旅行、文化、スポーツも企画



宮崎県人会は、現在、会員は約30人で過半数が1年次生。その中で宮崎県出身者は2人で、残りは他県出身者が占めています。私は愛媛県出身で、宮崎といけば「シーガイア」や「青島」に行ったことがあるくらいでしたが、雰囲気引かれて入会しました。

普段は、生田会館2階のボックスで昼休みや空き時間などに集まってはコミュニケーションを取っています。休日はみんなで楽しく過ごし、長期休暇中には有志で小旅行に行ったりします。昨年は「青春18きっぷ」を片手に、各駅停車で岩手まで行ったグループや、バイク好きが集まって遠く北海道まで走ったグループもあります。そんな学生ならではの「お金をかけず、時間をかけ、遊びを共にする」仲間が集う会、それが宮崎県人会です。

主な活動は4月の新入生勧誘とバーベキュー、夏・春の合宿です。合宿は、親睦を深めることが目的で、今年は8月はじめに愛知県へ行く予定です。他にも映画鑑賞などの文化企画や卓球リーグなどのスポーツ企画といったバラエティー豊かな企画があり「みんなが楽しい」をモットーに活動しています。お互いをよく知る機会が豊富で、友だちの新たな一面を発見することが出来ます。連合県人会が主催する各行事や本県人会が所属する第4ブロック(九州、沖縄)の行事にも積極的に参加し、他県人会の人とも広く友だちになれます。

私たちの目的は大学生という限られた時間を最大限に生かし、友だちと時間を共有することです。興味を持った人は、活動をのぞいてみてください。きっと楽しい雰囲気が伝わると思います。

宮崎県人会会長 高橋 花枝(経済3・愛媛県済美高)

[6月15日/ニュース専修14面]

【緑地帯】フリーターってホントに気楽？

フリーターが増えているという。フリーターとは、学生や主婦を除いた15歳から25歳までのアルバイトやパートで働く人を指すが、今では151万人にも上るらしい。ミュージシャンや俳優などを目指す夢追い型、不景気で就職できないやむを得ず型、今の気楽な生活を失いたくないモラトリアム型に分類でき、男女それぞれ2:4:4、3:3:4の割合だそうだ。

今風に言えば、私もかつては夢追い型のフリーターだった。大学4年生でやっとやりたいことが見つかって頑張った。でも、世の中そんなに甘くなく、何年も耐え難い日々を過ごした。どうにか夢の一部を実現できたが、振り返ると今でも胸が痛む。

最近、精神科医の香山リカ氏が新書『若者の法則』を出した。自分の趣味や時間が一番大切、楽しむことに貪欲、占いに凝る、本をほとんど読まない、悩むのが苦手、嫌われることを極端に恐れる、自分がしたいことしかしない、努力や葛藤せず理想を実現しようとする、ちょっと失敗するとすぐ諦めるなど、いまどきの若者気質を見事に分析している。フリーターを生み出す素地が見て取れる。

不景気続きで明るい未来が見えない。努力したって報われない。当面、バイトでも食うに困らない。だから今を楽しみたい。そんな気持ちも分からなくない。しかし、時は残酷だ。フリーターも25歳を過ぎると仕事が減る。バイトが本業になり、脱出出来なくなるという。行き先は決して気楽じゃない。思い当たるふしはないだろうか。そうなる前にしっかり考えておこう。まだ時間はある。

〔6月15日/ニュース専修14面〕